

ともに

男女共同参画社会の
実現をめざす情報誌

2018.4
63号

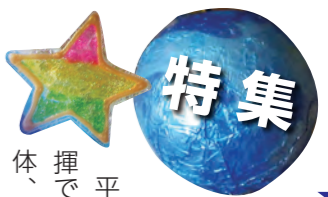
特集 女性の活躍推進

「えるぼし」最上位取得
宇宙航空研究開発機構 (JAXA) ワーク・ライフ変革推進室
室長 向井 浩子さんにインタビュー

P2~P4

- 男女共同参画啓発活動 in 青山学院大学 P5
- 作家の沖藤典子さんが、平成29年度市民文化表彰を受賞されました P5
- キラリ輝く人 in 相模原 P6~P7
麻布大学生命・環境科学部食品生命科学科 食品安全科学研究室
教授 小西 良子さんにインタビュー
- ソレイユさがみ男女共同参画フェスティバル P8





★「えるぼし」最上位取得★

宇宙航空研究開発機構(JAXA) ワーク・ライフ変革推進室

室長 向井 浩子さんにインタビュー

平成28年4月、女性の個性と能力が十分に発揮できる社会を実現するため、国、地方公共団体、民間事業主(一般事業主)の女性の活躍推進に関する責務等を定めた「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)」が全面施行され、今年で丸2年が経過したところです。

今号では、同法律に基づく認定マーク(愛称「えるぼし」※詳細は4ページ参照)最上位を取得した宇宙航空研究開発機構(JAXA)(以下「JAXA」といいます。)に取材しました。

取材に至った経緯

相模原市では、男女共同参画研修等支援事業として、男女共同参画や女性の活躍を推進する事業所に研修講師を派遣しており、平成29年9月、JAXAから、「介護の基礎情報」をテーマに講師派遣の申込みをいただきました。

このご縁をきっかけに、JAXAワーク・ライフ変革推進室室長の向井浩子さんに、ワーク・ライフ変革推進室で、女性の活躍の推進と職員の働き方の変革に向け、行っている制度設計や取組の姿勢について取材しました。



宇宙航空研究開発機構(JAXA)とは

JAXAは、平成15年に宇宙科学研究所(ISA)、航空宇宙技術研究所(NAL)、宇宙開発事業団(NASDA)の3機関が統合して誕生しました。

政府全体の宇宙開発利用を技術で支える中核の実施機関と位置付けられ、同分野の基礎研究から開発・利用に至るまで一貫して行っています。

相模原市中央区由野台にあるJAXA相模原キャンパスでは、太陽の活動や月・惑星、ブラックホール、銀河の成り立ちなど、宇宙に関するさまざまな研究を行っています。また、人工衛星や探査機、ロケットの模型などの展示・見学及び相模原市と連携したイベント等も実施しています。

ワーク・ライフ変革推進室の取組

JAXAには男女共同参画の実現に向けた様々な制度があります。その中から、いくつかご紹介いただきました。

子育てランチ交流会

調布航空宇宙センター・飛行場分室、東京事務所、筑波宇宙センター、相模原キャンパスでは、月に1回「子育てランチ交流会」を行っています。男女とも、子どもがいてもいなくても誰でも参加できる交流会で、子育てと仕事の両立についての悩みや、制度の改善についてなど、肩肘張らずに情報交換ができる場となっています。そこから制度検討に至っている部分もあります。

育児制度

JAXAでは、女性の産前・産後休暇を除きほぼすべての育児支援制度を男女同じように活用できます。また、女性だけでなく、男性も育児参加のために休暇がとりやすくなるよう「配偶者の出産に関する3日以上の特例休暇取得の推進」を設定し、休暇取得率の目標値を80%に設定しています。

フリーアドレス化と脱紙文化宣言

この取組は、数値目標とすることで、管理職が部下に対し休暇の取得を促し、部下の休暇取得率が上がることで管理職自身の評価にもつながり、結果的に休暇を取得しやすい雰囲気になることを目指しています。職員が個々に机を持たないフリーアドレスを導入したところ、とても評判が良かったです。どこに座ってもいいので、その日の打ち合わせ

等の内容により座席を変えることができますし、個人の机に資料を置くことができなため、情報がすべて電子化され、利便性が向上しました。東京事務所は全体がフリーアドレスとなっています。あわせて、可能な部署から脱紙文化宣言を行い、基本は紙でなく、電子ファイルを用いて仕事をすることで、働きやすいオフィス環境の整備に取り組んでいます。

テレワークの対象を拡大予定

制度の活用状況はどうですか？

テレワーク※の制度があり、現在は育児・介護中の職員のみ週に1回利用を認めています。対象者の枠を広げて欲しいという要望を受け、試行的に育児・介護従事者以外の希望者で実施したところ、大変好評でした。その結果を踏まえ、平成30年度から、3年以上勤務している全職員を対象を拡大する予定です。

※テレワーク：ICT(情報通信技術)を活用した在宅勤務等、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方

今後の展望について教えてください

ワーク・ライフ変革推進室ができてから丸2年が経ちました。この2年で筋道をつけたかったのですが、いざ2年間取り組んでみると、その難しさがわかりました。「女性の活躍の推進」についてはある程度見通しがついてきたところですが、「働き方改革」については、今は一つ一つ地固めを進めている段階で、制度を変えていくのはまだこれからというところです。

最終的には、「女性の活躍の推進」「働き方改革」のどちらについても、制度に頼るのではなく、

ワーク・ライフ変革推進室とは

「男女共同参画推進室」設置

平成25年10月

女性活躍の推進を中心に男女共同参画の推進に取り組み

平成27年

「仕事の進め方変革チーム」設置

平成28年4月

改めて課題の洗い出しを行う

女性だけでなく男性も含めた全職員のワーク・ライフ・バランスの向上について、目標としてより明確に打ち出すこととなる

「ワーク・ライフ変革推進室」設置
「男女共同参画推進室」及び「仕事の進め方変革チーム」をあわせ、「ワーク・ライフ変革推進室」が設置される

性別に関りなく全職員が、ライフサイクルに応じて多様な働き方のできる組織になること

・研究開発法人としての成果の最大化

「女性の活躍の推進」と「職員の働き方の変革」に関すること

ワーク・ライフ変革推進室について

ワーク・ライフ変革推進室は、室長のもとに、経営推進部長、総務部長、人事部長、セキュリティ・情報化推進部長が通常業務と兼任して業務にあたることで、組織全体のバックアップを受けられる体制を作り、「多様な人材が能力を発揮し、多様な視点で高い目標に挑戦し成果を創出する組織へ変革する」ための取組みを行っています。

今日目標としていることを日常的な活動として当たり前に実現できる状態こそがゴールであると考えています。

妊産	6週間前	出産	8週間後	1歳	3歳	小学3年生	
女性職員	勤務免除(健康診査等)	産前休暇	産後休暇	育児時間(1日30分×2)	育児休業※(2/3→2/1の給付)		
	通勤緩和			育児短時間勤務(週20H/22、5H/25Hから選択)	育児短縮勤務(1日2時間まで)		
	勤務免除(休憩)			育児短縮勤務(週20H/22、5H/25Hから選択)	育児短縮勤務(1日2時間まで)		
	業務軽減等			テレワーク勤務	テレワーク勤務		
	テレワーク勤務			時間外勤務、休日勤務及び深夜業免除/時間外勤務制限	時間外勤務、休日勤務及び深夜業免除/時間外勤務制限		
	時間外勤務休日勤務及び深夜業免除			フレックスタイム勤務(コアタイム免除)	フレックスタイム勤務(コアタイム免除)		
				子の看護休暇(5日/年度、2人以上の場合は10日/年度)	子の看護休暇(5日/年度、2人以上の場合は10日/年度)		
				3日※2	育児時間(1日30分×2)	育児休業※(産後8週間以内に終了の場合は、再度取得可)	
				配偶者出産時休暇(5日)	育児短時間勤務(週20H/22、5H/25Hから選択)	育児短縮勤務(1日2時間まで)	
					育児短縮勤務(1日2時間まで)	育児短縮勤務(1日2時間まで)	
男性職員				テレワーク勤務	テレワーク勤務		
				時間外勤務、休日勤務及び深夜業免除/時間外勤務制限	時間外勤務、休日勤務及び深夜業免除/時間外勤務制限		

※育児休業を取得すると雇用保険の育児休業付として給与の67%(6か月経過後は50%)が支給できます。

※2 配偶者出産時休暇(3日)→入院～産後2週間以内

取材後記 (さみはら男女共同参画推進員N.A.)
女性の活躍推進を目指していたらワーク・ライフ・バランスの重要性に気付かされ、必然的に全職員の働き方そのものを変革することへと発展したという推進室の成り立ちは、そのまま社会全体で共有したい方向性だと思えました。多彩な制度、実効性のある組織づくり、PDCASサイクルによる目標達成への粘り強い努力、さすがはえるぼし最上位です。仕事に合わせて人生設計をしてきたこれまでの時代から、働く人の多様な生き方に職場が合わせる未来の予感がします。



男女共同参画啓発活動 in 青山学院大学

平成29年10月、青山学院大学相模原キャンパスで開催された「第15回相模原祭」において、さがみはら男女共同参画推進員とともに、「男女共同参画川柳」10句のパネルを展示し、来場者の方に、関心のある一句へ投票をしていただきました。



投票結果から、ワーク・ライフ・バランスや性別役割分業に関する川柳に票が集まり、男女ともに仕事と家庭の両立や家事の分担などを理想としていることが窺えました。また、DVのジャンルに男性の票が多く寄せられた点から、男性のDVへの理解が深まっていることが推察されます。

今後も様々な場面で、男女共同参画啓発活動を進めていきたいと思います。



ジャンル	川柳	投票数	男	女
性別役割分業	うちのパパ イクメンなのよ！ ママ笑顔	94	35	59
	妻女子会 夫はエプロン 腕まくり	96	18	78
	パパ起きて 最初の仕事は おむつ替え	99	34	65
ワーク・ライフ・バランス	ノー残業 パパとおつかい うれしいな	231	101	130
	妻仕事 僕育休で 奮闘中	39	11	28
女性活躍	審議会 女性の数も 4割に	28	4	24
	女子社員 「先輩部長」 が目標よ！	41	16	25
DV	本人が 「嫌だ」と思えば セクハラよ！	96	31	65
	繰り返す 「迷惑メール」も ストーカー	42	12	30
	お〜怖い 威嚇・罵倒はDVです！	36	14	22
合計		802	276	526

作家の沖藤典子さんが、平成29年度市民文化表彰を受賞されました

沖藤典子さんは、作家として、女性の社会進出等に関する優れた創作活動を続けられるとともに、相模原市男女共同参画に関する条例検討委員会委員長、神奈川県女性問題協議会会長を歴任されるなど、長年にわたり男女共同参画社会の実現に尽力され、市民文化の進展に貢献されました。



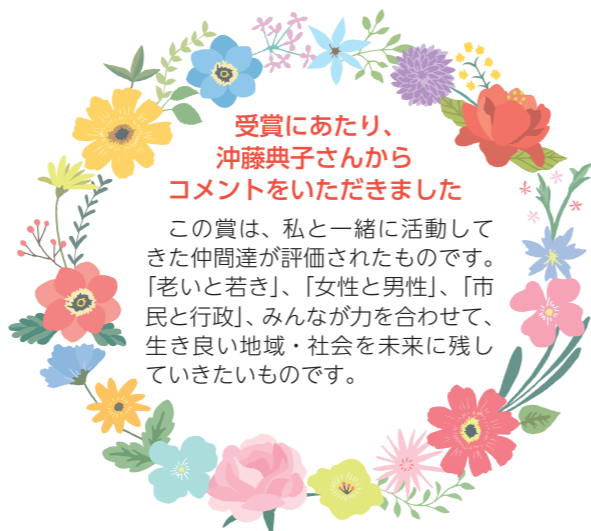
表彰式での加山市長と沖藤さん（左）

◆市民文化表彰とは…

市民文化表彰は、市民で相模原市の公共の福祉の増進、文化の向上又はスポーツの振興に寄与し、その功績が特に顕著と認められる方に対して行われる表彰です。

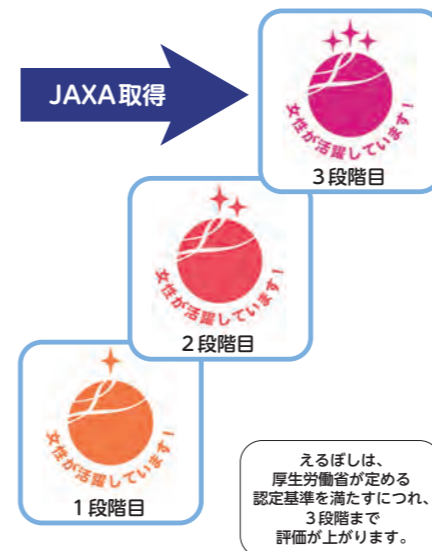
沖藤典子さんプロフィール

- 昭和13年生まれ
 - 相模原市南区在住
- 昭和54年、女性の社会進出をテーマに書いた『女が職場を去る日』（新潮社）を出版し、執筆活動に入る。以後、女性の生き方や家族の問題、シニア世代の研究、介護問題などに深い関心を寄せ、旺盛な執筆、市民活動を続けています。
- 【代表作】
- ・女が職場を去る日（昭和54年 新潮社）
 - ・薄命の作家素木しづの生涯（昭和63年 新潮社）
 - ・介護保険は老いを守るか（平成22年 岩波書店）
 - ・女50代 人生本番！（平成24年 佼成出版社）
 - ・老いてわかった！ 人生の恵み（平成29年 海竜社）



受賞にあたり、沖藤典子さんからコメントをいただきました

この賞は、私と一緒に活動してきた仲間達が評価されたものです。「老いと若さ」、「女性と男性」、「市民と行政」、みんなが力を合わせて、生き良い地域・社会を未来に残していきたいものです。



「えるぼし」認定について
平成28年4月1日に全面施行された「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」では、一般事業主行動計画の策定及び策定した旨の届出を行った企業のうち、一定の基準を満たし、女性の活躍推進に関する状況等が優良な企業について、厚生労働大臣の認定を受けることができる制度が創設されています。
認定は、基準を満たす項目数に応じて3段階あり、認定を受けた企業は、認定マーク（愛称「えるぼし」）を商品や広告、名刺、求人票などに使用することができます。女性の活躍を推進している事業主であることをアピールすることができ、さらには、公共調達や融資の場面で有利になるメリットもあります。
JAXAは、「採用」「継続就業」「労働時間等の働き方」「管理職比率」「多様なキャリアコース」全ての項目で認定基準を満たし、女性の活躍推進に関する取組の実施状況等が優良であるとして、平成29年9月28日付で「えるぼし」最上位の認定を受けました。

相模原市男女共同参画研修等支援事業（講師派遣）について、申し込みくださいましたJAXAにお聞きしました

平成29年9月、「介護の基礎情報をテーマに講師派遣を申し込みいただきました。お申込みいただいた経緯について教えてください」

「介護セミナー」がなかなか介護生活&JAXA支援制度説明会の開催のため、講師派遣を申し込みました。男女共同参画というところ、出産・育児がクローズアップされがちですが、介護は期間も見通せず、仕事との両立が難しくなりがちということで、今後、介護をする可能性がある職員から、基本的な情報が欲しいという声がありました。その声を受けての申込みです。

事業を活用しての感想がありましたらお願いします。

自分の親にはいつまでも元気でいて欲しいものですし、そうあるはずだと無意識に思い込んでしまうこともあると思います。だからこそ、介護が必要だと気付いた時に、その準備ができていないようではいけないと危機感を持つ職員が多かったです。

セミナーに参加した職員からは、「情報を得られると安心」「実例を知ることができ、参考になった」と好評でした。

男女ともに、自分自身の問題として将来を考えるきっかけになったと思います。

女性活躍を推進する事業所の皆様へ

事業所の研修に**専門の講師を無料で派遣**します。

男女共同参画や女性の活躍を推進する事業所に、研修講師を派遣します。職場における女性活躍の推進にお役立てください。

- 対象 相模原市に所在する事業所やその労働組合や団体等
- 参加者数 概ね10人以上
- 時間 原則として午前10時から午後8時までのうち、2時間以内
- 講師 研修等の内容に応じて事業所等と協議の上、市が選任及び派遣
- 経費 講師への謝礼は、市が負担
- お申込み 開催希望日の2か月前までに、所定の申込書を人権・男女共同参画課へ提出



研修テーマの例
・女性の活躍を進めるためには
・男女で支えあう子育てと介護

お問い合わせ 人権・男女共同参画課 電話（直通）：042-769-8205



研究室の皆さんと小西教授（中央）



男女共同参画社会
実現に向けて、
各分野で活躍中の方々を
紹介するコーナー

キラリ輝く人 in 相模原

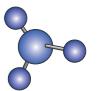
麻布大学生命・環境科学部食品生命科学科
食品安全科学研究室教授

小西 良子 さんに インタビュー



麻布大学生命・環境科学部小西良子教授が、第113回日本食品衛生学会の学術大会で、「日本食品衛生学会賞」を受賞されました。長年の研究分野であるカビ毒と新規に発見した寄生虫性食中毒物質について、食品へのリスク評価や厚生労働省の規格基準策定に貢献したことなどが評価されたものです。

相模原市中央区にある麻布大学の研究室に、元祖「リケジョ」の小西教授を訪ねました。



獣医師から食品安全科学 の研究者へ転身

もともと生物系の分野は好きでした。中学2年生の時にムツゴロウ著『われら動物みな兄弟』を読んで感激し、一気にシリーズ全巻を読んで、将来は獣医師になって動物園で働く夢をもちました。希望通り麻布大学の獣医学部に進むのですが、実習で動物の世話をするにつれ、いかに自分が不器用で、とても開業の獣医には向かないと思い至りました。

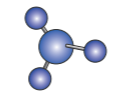
次にやりたいこととして、大学の先生を考えます。そのため大学院に進学し、食品アレルギーの研究に取り組んだことから、食品安全の分野に興味をもちました。

農学博士の学位を取ったのですが、就職先は結局希望通りにはいきませんでした。当時すでに結婚して子どもがいたからかかと感じています。そこで、そうしたことがハンディにならないであろう公務員を目指し、幸い国立予防衛生研究所（現、国立感染症研究所）に就職できました。

ここで「カビ毒」と出会います。カビ毒をはじめ、微生物がつくる化学物質というものの多様性と神秘性に魅せられて今に至っております。研究公務員として定年の1年前まで勤務できました。

また現職では、出身校で教授として専門分野を学生達に指導する立場となり、二十数年来の夢がかなったことになりました。

をもらったのよ。」とか、「親としては60点でも、3つのことを同時にやってそれぞれ60点とれたら、もう100点以上じゃない？」って。（笑）

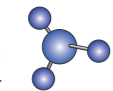


現在の研究室での研究と 活動について

当研究室では、食の安全の科学的な根拠を研究しています。応用科学と言われるもので、多くの専門分野の知識と技術が必要になります。

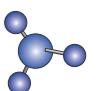
例えば微生物学、分析学、分子遺伝学、毒性学、リスク評価学、統計学などですが、その中でもカビが産生する毒素と、平成22年に発見した新寄生虫性食中毒を対象に、産生カビや寄生虫の同定、分析法の確立や食品への汚染状況、毒性研究などを研究しています。

専門的なようですが日常口にする食品と密接にかかわる分野でもあります。年に1回の市民講座やあじさい大学などでも講師をしています。おかげさまで毎年好評をいただいています。



若い人へのメッセージと 将来の夢

これからの時代は、人生のキャリアの自己開発が求められる、若い時から公私にかかわらず何事もマネジメント能力が必要となるでしょう。重責とチャンスが増える一方で、男女双方にとってこれまで以上に安定した



学生の時に結婚、 研究しながらの子育て

結婚や出産についての考え方は、私は少し変わっているのかもしれない。結婚して出産をするという営みは生物としての自然なことと考えていたのですね。結婚を恋愛とは違う次元でとらえていました。

ですから相手についてはわりと人任せで、人選は母親にお願いしました。長く一緒に暮らすには価値観が近いほうがよいだろうと思ったので、自分よりも自分のことを分かっている母親の眼鏡にかなった人であれば大丈夫かと。当時、女性は24歳ごろまでに結婚というのが一般的でしたから、私も24歳までに結婚して26歳くらいには出産したいと漠然と思い込んでいましたね。

ただ、勉強を取るか結婚を取るか、あるいは仕事に生きるか子育てに専念するかという二者択一の選択の考えを私自身はもちませんでした。それよりも、学生をしながら結婚生活ができる経済力と許容力のある相手を探す、子どもが小さくて手のかかるときに研究が忙しければ夫や親や近所の人を総動員して乗り切る、というやり方を選んできたのです。

そうはいつても、子どもたちにはやはり寂しい思いはあったようです。時には親としての至らなさを批判されたりもしました。実際、自分でも子育てについては決して満点ではなかったと思っているのですが、そこは正直に伝えることにしています。「親が忙しいおかげで親以外の人からたくさんの愛情

家庭が必要とされるのではないのでしょうか。私の場合は若いうちに伴侶を得て子育てで恵まれていたと思います。若いときは同時にいくつものことがこなせますし、子どもはあつという間に大きくなるもの。子どもという別人格に無条件に振り回される経験をしたことで、人生の幅に広がりをもてたと感じています。

子育てに限りませんが、人生、大変な時であつても自分がエネルギーを注ぎたいものは細々とでも続けていき、自分から離れていけないことが大事。いずれそこを乗り越えたとき、続けてきたこと自体が自分の誇りになります。

私自身の将来は、あと数年で教授職も定年となりますが、その後20年間はあるとして、これまでとは全く違うことにチャレンジするのもいいかなと考えています。でもしばらくは孫の面倒など見て、子ども孝行しておくかしらなどと殊勝にも思っています。（笑）

取材後記

12月下旬、落葉を踏みしめながら、キャンパスに取材に伺いました。お目にかかったのは、研究室で学生の皆さんに囲まれ、楽しそうに話されている笑顔の素敵な先生。学生の皆さんとの信頼感が感じられました。
食の安全の研究者としてご自分の続けたい夢は諦めずに、子育ても全うされ、充実感に満ちた「キラリ輝く」先生でした。

（左がみはら男女共同参画推進員 Y.N.）



ソレイユさがみ

男女共同参画フェスティバル

6月23日(土)・6月24日(日)

時間/午前10時～午後4時

会場/ソレイユさがみ 全館

おいしい食べ物や
楽しい催しが
たくさんあります。

…詳しくは広報さがみはら
6月1日号をご覧ください。

予告

6/23(土)

さがみはら 女と男のいきいきフォーラム 2018

日時 6月23日(土) 午前10時から

会場 ソレイユさがみ セミナールーム1

講師 倉原佳子さん(オペラ歌手)

※お申し込み方法など詳しくは広報さがみはら5月15日号をご覧ください。

*登録団体の活動発表 (一部体験あり)

*登録団体のパネル展示

*研究発表

男女共同参画に関わる研究活動発表会

*軽食

ロコベジ焼きうどん、パン、酒まんじゅう

*その他

- 男女共同参画川柳コンテスト入賞作品展示
- 交流コーナー
- 大船渡物産販売
- プチマルシェ
- 男女共同参画ビンゴゲーム

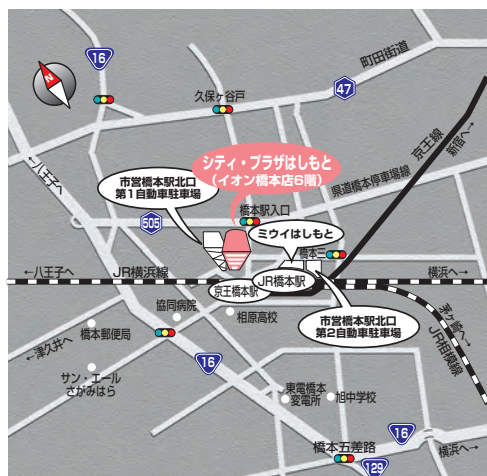


●お問い合わせは
ソレイユさがみへ
☎042-775-1775
(問合せ時間 9:00～17:00)



ソレイユさがみ登録団体…

女性を取り巻く諸問題の解決および男女共同参画社会の実現を図ることを活動目的とする団体



ソレイユさがみ(相模原市立男女共同参画推進センター)は、女性も男性も自分らしくいきいきと生きることができる男女共同参画社会の実現を図るための拠点施設です。

〒252-0143 相模原市緑区橋本6-2-1(シティ・プラザはしもと内)

JR横浜線・JR相模線・京王線橋本駅北口 徒歩1分

TEL.042-775-1775 FAX.042-775-1776

ソレイユさがみは、指定管理者「NPO法人男女共同参画さがみはら」が管理運営しています。

6/24(日)

*登録団体の活動発表 (一部体験あり)

*登録団体のパネル展示

*軽食

野菜たっぷり焼きそば、コーヒー喫茶ケーキ付
パン、酒まんじゅう

*その他

- 男女共同参画川柳コンテスト入賞作品展示
- 交流コーナー
- バルーンアート
- 絵本とおもちゃのリサイクル
- 子ども服リサイクル
- 大船渡物産販売
- プチマルシェ



E-mail jinkendanjo@city.sagamihara.kanagawa.jp

本号へのご意見・ご感想をお待ちしております。

発行 相模原市役所(人権・男女共同参画課) 〒252-5277 相模原市中央区中央2-11-15 TEL.042-769-8205(直通)

取材・協力 さがみはら男女共同参画推進員(広報担当 浅井紀子、井上幹夫、小黑芳男、川本若菜、篠原直彦、中村由起子 50音順/敬称略)